

緑の相談所だより

—第42号—

[秋号 1996. 10. 1発行 編集：旭川市緑の相談所]

室内園芸

冬に向けての鉢物管理

日時 10月13日(日)午後1～3時

講師 元旭川農業高等学校
教諭 佐藤 文男さん

庭木の冬囲い

日時 10月27日(日)午後1～3時

講師 フラワーマスター
小島 博昭さん

講習会

バラのはなし

日時 11月10日(日)午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所
相談員 佐野 元雄

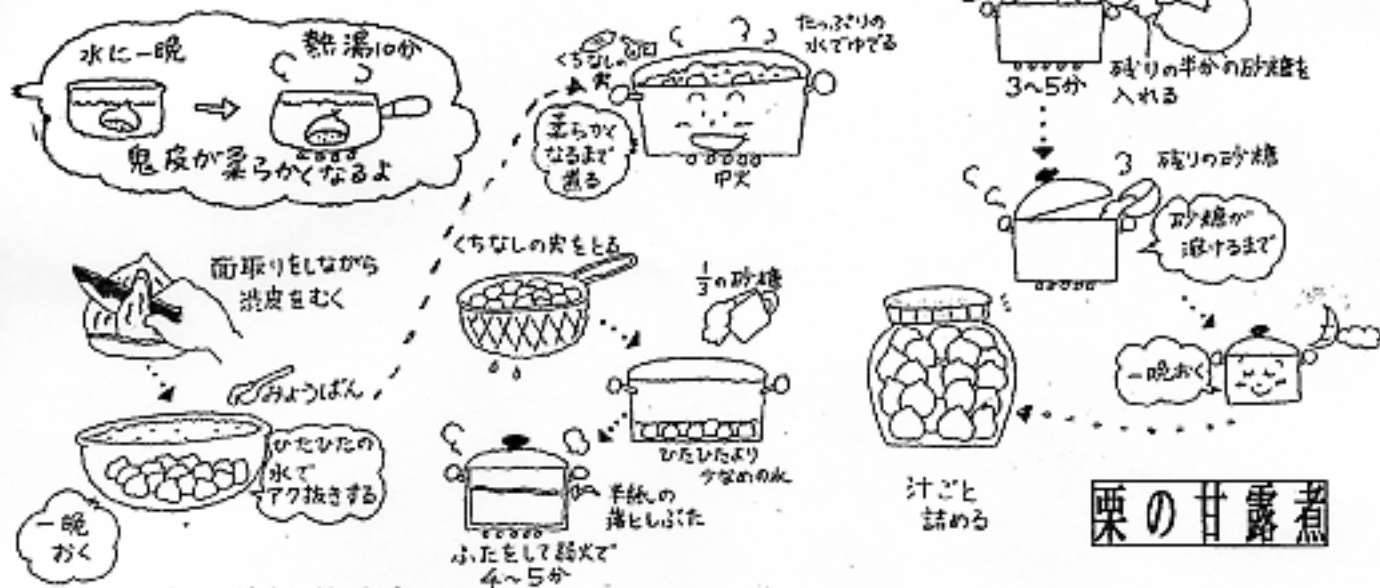
洋らん・冬の管理

日時 11月24日(日)午後1～3時

講師 旭川洋らん会
会長 笠原 幸三さん

いずれも
定員
50名
無料

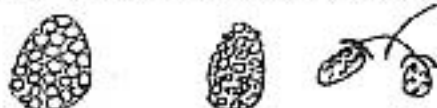
材 栗 (大きめのもの) 500g 砂糖 200g
料 みょうばん 少々 くちなしの実1個



庭に小果樹を

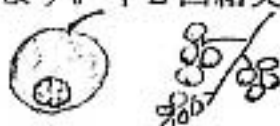
庭先でグースベリー等の小果樹類を育てることも楽しみなものです。植える場所は小面積でよく、生け垣にしても面白く、果実は色とりどりできれいですし、なにか昔懐かしい味を楽しむ他、ジャム、果実酒等の良い材料にもなります。

ラズベリー (キイチゴ)



キイチゴ類には野生の他色々種類がありますが、当地にはラズベリーが適当でしょう。株の高さは1~1.5mぐらい、2g程の大きさの円錐形の実を多数つけ、色は赤、黄色、黒、オレンジ等の品種があります。生食の他、ジャム、ゼリーシロップ等に利用します。年2回結実する場合もあります。

ブルーベリー



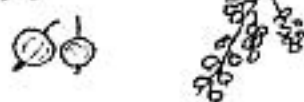
山に自生するクロマメノキと同類でドウダンツツジに似た花をつけ、秋の紅葉も見事です。樹高は1.2~1.8m、2g程の濃い紫の実をつけます。さわやかな口当たりで生食に適しますが、ジャム等にも利用できます。

グースベリー (スグリ)



高さ1m前後、3g位から7g程の大玉もあり、果色には赤、緑黄があります。生食の他ジャム等にして利用します。ウドンコ病に弱いのが難ですが、他の作物のウドンコ病防除の目安として活用できます。

カーランツ (カリンズ・フサスグリ)



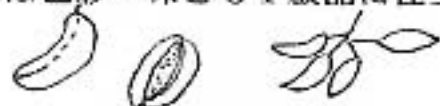
スグリと同属で樹高1.5m位、1果房10数個房状に果実をつける。果色は赤と黒です。赤い実のなる庭木としても利用できます。酸味が少しきついですがシロップ、ジュース、果実酒に加工すると風味の良い飲み物となります。

ハスカップ



勇払原野に多く自生していたものですが、この頃は各地で栽培されるようになった小果樹で、お菓子の材料にもなっております。又健康食品としても人気があります。樹高1.5m程、7月上旬頃青紫色で長さ1cm位楕円形の実をつけます。甘味の強いものは生食もできますが、酸味が強いので加工品向きです。ジュース、ジャム等にすれば色彩・味とも1級品に仕上がります。また塩漬としても利用できます。

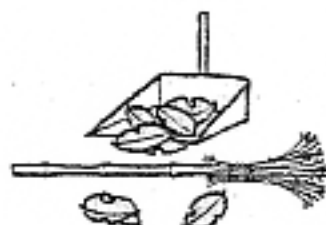
アケビ



ブドウのようなツル性で、仕立て方により庭木や生け垣にも利用できます。長さ10~15cm 半円形 青色の特徴のある実をつけ、完熟すれば果皮を聞き食頃を知らせてくれます。生食の他果皮も料理の材料として利用します。



冬がくる



山の紅葉が里に降り、やがて雪がきて冬に向かう季節。園芸狂にとってはなんと忙しい時期でしょう。やり残していることはないか？ 忘れていないか？

庭木の冬囲い、寒さに強い木は枝が折れないようにすることだけでこと足りるから枝吊りや支柱に縄掛けですむ。寒さから守ってやる必要のある木は弧巻きが必要、弧巻きがビニル巻きになるとこれは問題、木が蒸れてしまう。いやはや、面倒なことだが庭に木を植えるのが、そして眺めるのが好きなんだから致し方ない。寒さに十分あたり、落葉樹は木の葉が落ちてからとなると文化の日などは遊んでいられない。夏から切りたくて切りたくてじたんだ踏んでいた四方八方にのびたブドウの蔓、初雪が来ればそろそろハサミを右手にご出陣。きれいさっぱりと整理するのがコツ。切り取った枝を二芽つけ切り口をきれいに削りなおして湿った砂の中に埋めて置けば、来春挿し木が出来ろぞ！ 切ると言えばカエデの枝も伸びすぎている。一緒に切らなくては。と、ここまではよいがついでにサクランボもナシもツツジもとなるとノリ過ぎ。来春まで待ちましょう。木を囲ったり、切ったりしているばかりが能ではない。落ち葉集めも来年のため。貴重な腐葉土の原料ですぞ！ 盆栽や山野草の鉢物もひと所に集めて越冬準備。ネズミや雪解け水にご用心。

そうだ、来春の花壇の準備も出来れば今の内に。霜にうち萎れた花の終わった株がそのままになっては可哀そう、床土も耕しておかなくては。そうそう、プランター用の土の準備も今の内に。できれば、野菜畑も耕して堆肥を鋤込んでおくといいのだが。さてと、外周りはこれで万全・・・とはいかない。雪の晴れ間を見て庭木や果樹に石灰硫黄合剤を散布して、目出度く万全。冬よ来いである。

一方、困ったことに部屋の中は冬を控えて避難してきた鉢物だらけ。クンシランにシャコバサボテン、コチウランに洋ランの類、球根ベゴニアに・・・やがては買われてきたシクラメンやアザレアも仲間入り。いやはや夜店の前のように混み合っているこの中味が大問題。暮れには赤くなるはずのポインセチアとこれからも花が咲き続けてほしい球根ベゴニアが同じ場所では具合が悪い。シャコバサボテンとコチウランが一緒ではこれ又問題だ。暖かい部屋の中では、花芽をつけない花もある。花芽を作る条件や生育適温の異なる植物の同居は、猿と犬と一緒に飼うにも似て手間暇かけて効果が上がらない。程度に差はあるが低温・短日・乾燥で花芽が育つシャコバサボテン、カランコエ、ポインセチア、クンシラン、長日条件で開花を続ける球根ベゴニア、ハイビスカス、ブーゲンビレア、光線が弱くても耐える観葉植物類などなど。クジャクサボテンなどは新聞紙に包んで押入の中にでも放り込んで手抜き管理といこう。デンドロビューム・ノビルやシンビジュームは花芽の完成から伸長期にかかる。水やり、温度管理に気をつけないと花芽がとんでしまうからご用心、ご用心。これからの室内は乾燥、光線不足が鉢物を弱らせる。上手に室内環境に馴化させる工夫をしよう。あー、これは園芸なのか、曲芸なのか？

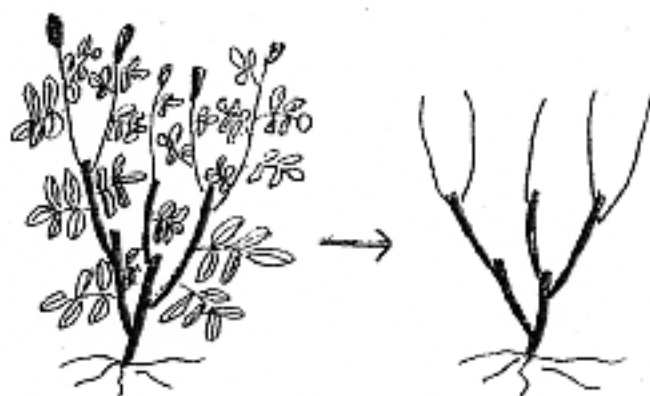
バラの冬越し

今年6月から9月まで見事な花を咲かせたバラを、また来年も楽しむために冬籠りの準備をします。旭川地方は札幌付近より冬の寒さは厳しく、冬越しには特別の手当てが必要です。最良の方法は土に埋めることです。

○ 作業手順 ～ 11月上旬から始めます。

1 葉落とし

葉には病害虫などが付着しそのまま越冬したり、幹に密着し腐敗させることが多いので、手でむしり落とします。落とした葉は丁寧に集め土に埋めます。



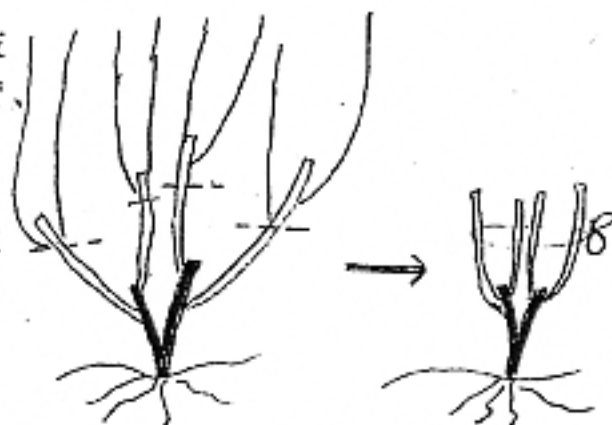
2 防除

ウドンコ病、ダニなどを越冬させないために石灰硫黄合剤（20～40倍）を幹と株の周囲に散布します。

3 剪定・結束

旭川地方の場合、翌春迄に枝枯れする場合がありますので、幹はできるだけ多く残すように秋の剪定は軽くします。

今年伸びた若い枝を大事にします。



4 土に埋める

株周囲の一方に剣先スコップを差し込み断根し、その反対側に穴を掘り、株を倒して土をかけ埋めます。（他の2方向の根は切らないように）

